

# 中国、車の合併規制緩和

## エコカーなら3社目可能

【廣州＝中村裕】中国政府は外資系自動車メーカーの参入規制を緩和し、従来は2社までに限定していた中国企業との合併契約ルールを12日付で撤廃した。電気自動車（EV）などのエコカー事業であれば、今後は3社目でも中国企業と合併を組み合わせ、中国で生産・販売活動を行える。外資は新たな合併先を見つけて販売拡大が期待できる。



VWは中国で多様な車種を供給して乗用車ブランド首位を走ってきた（小型車「ゴルフ」）

### 中国における 主な外資メーカーの提携先

外資メーカー	提携先中国メーカー
独フォルクスワーゲン(VW)	上海汽車 第一汽車 J A C
米ゼネラル・モーターズ(GM)	上海汽車 広西汽車
トヨタ自動車	第一汽車 広州汽車
ホンダ	東風汽車 広州汽車
日産自動車	東風汽車

中国の経済政策のかじ取りを担う国家発展改革委員会などが12日付で取りを担う国家発展改革委員会などが12日付で

中国がルール変更に取り組む旨を公表した。み切った背景には、昨秋から独フォルクスワーゲン(VW)と、中国の中堅国産メーカーの安徽江淮汽車(JAC)との間で検討が進められていた合併契約が念頭にある。中国で2016年の販売首位だったVWは6月、JACと中国で3社

目となる合併契約を正式に結んだ。VWは既に上海汽車集団(上海市)との減速に伴って新車市場が勢いを失うなか、政府の大手中国メーカーは起爆剤としてEV市場

日本の自動車メーカーは中国の電気自動車(EV)などエコカー市場開拓で現地勢や欧米勢に出遅れている。中国は世界最大のEV市場に成長したが、日本メーカーでEVを販売するのは日産自動車のみ。EVの生産・販売には、ガソリン車とは異なるノウハウがある。市場拡大の波に乗るため、現地事情に精通する中国メーカーとの連携は有効。日本勢は3社目の合併相手も選択肢に巻き返しを急ぐ。日産は日本で展開する主力EV「リーフ」の改良車を中国で販売。中国は日本と違って低価格のEV普及が進む。

## 日本勢、巻き返し急ぐ

### 最大市場で事業拡大加速

現在は東風汽車のみと合併会社を組んでいる。低価格のEV対応の強化も重要になる。中国のEVやプラグインハイブリッド車(PHV)を販売しなくてはならない規制を入れる。日本メーカーの対応は不可欠で、EVなどエコーカー事業の拡大ペースを加速する必要があり、18年にトヨタはPHV、ホンダはEVを中国で投入する予定だ。すでにトヨタ自動車、ホンダ、日産が第一市場で存在感を直結する。中国の規制緩和を好機にでき多くの日本メーカーが「上限」問われる。

2社と合併契約を結んでいるが、JACとはEV事業に限って合併契約を締結。成長分野であるEV事業でも市場をけん引する考えだ。従来は2社目と中国企業との合併契約は違反に当たるとして3社目となる中、新ルールは中国のEV市場に新たな競争環境を増えかねないからだ。外資の合併相手は大手に限らず、慎重なかじ取りが求められることになりそう。